

## 第 4 回 総合計画審議会（交流分科会）議事要旨

日時 平成 22 年 4 月 12 日（月）午後 1 時 00 分～3 時 00 分

場所 横須賀市消防局庁舎 4 階災害対策本部室

出席委員 細野助博委員（座長）、室町泰徳委員（副座長）、伊藤智委員、小野間重雄委員、高瀬順治委員、鳥居里美委員、中台学委員、永田翔吾委員、西原徹委員（以上 9 名）

事務局 政策推進部 松谷部長

横須賀市都市政策研究所 福本課長、小澤主査、檜山主任、山中主任

傍聴者 市民 4 名

議事内容

1. 報告事項
2. 審議事項
3. その他

（事務局）

- ・ それでは定刻になりましたので、審議会を開催させていただきたいと思います。始めに年度も替わりまして、当部（企画調整部）の名称が政策推進部に変更となりました。また、部長も新しく替わりましたので、開催前に改めてご挨拶をさせていただきたいと思います。

（松谷部長）

- ・ 皆さん、改めましてこんにちは。この 4 月から政策推進部長ということで、総務部の方から参りました松谷と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。これまで企画調整部として、基本計画策定に関しましては所管をしておりましたが、名称が変わりました。市長の施策を推進していくということで、名称を変えての新たなスタートでございます。
- ・ 基本計画策定につきましては、これまでの審議を踏まえ、引き続き立派な計画を作っただけだと思っております。これまで毎回 50～100 のご意見をいただいているということで、是非それらが計画に活かせるよう、我々も努力していきたいと思ひます。大変議論のしにくい中でご議論していただいていると思ひますが、これからは具体的な事業に落とし込んだ中での議論が始まりますので、なお一層活発なご意見をいただきたいと思いますと思ひます。我々もできるだけそれらを取り込んでいけるよう努力させていただきますと思ひます。
- ・ 本日はお足元の悪いなかお集まりいただき、ありがとうございます。簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

(事務局)

- ・ 松谷は所用により退席させていただきます。

## 1. 報告事項

(細野座長)

- ・ 報告事項と審議事項に入りますが、新年度でございますので、委員の交代がございます。横須賀集客促進実行委員会の四宮様から高瀬様に代わりました。

(高瀬委員)

- ・ 京浜急行の高瀬でございます。いろいろな意味で大変お世話になっておりまして、これからこの会議に出席させていただきますので、よろしくお願いいたします。

(細野座長)

- ・ 報告事項に入りたいと思います。事務局より、「(1) 第3回総合計画審議会(交流分科会)の議事要旨について」「(2) 第3回総合計画審議会(交流分科会)意見について」「(3) 横須賀市基本計画の策定に関する特別委員会(平成22年3月24日開催)について」の説明を資料に基づいてお願いいたします。

### (1) 第3回総合計画審議会(交流分科会)の議事要旨について

(事務局)

－資料1説明

### (2) 第3回総合計画審議会(交流分科会)意見について

－資料2説明

### (3) 横須賀市基本計画の策定に関する特別委員会(平成22年3月24日開催)について

－資料3説明

(細野座長)

- ・ ただいまの資料1、2、3に基づいた説明につきまして、何かご質問、ご意見等ございますか。
- ・ 資料2の対応分類のうち、「意見を踏まえ施策等を修正するもの」、「意見を踏まえ施策等への反映を検討するもの」を意識して発言していただければと思います。たくさんの方の参考意見、施策に反映できるような意見をどんどん出していただくと、事務局の方々も期待に添う委員を選出できたということになると思いますので、よろしくお願いいたします。
- ・ 資料3の特別委員会でも、なるべく視野の広い、多様な分野の方々をお呼びして意見をお聞きしてほしいという要望がございましたので、そのつもりで私の方からもお願いしたいと思います。
- ・ 特別委員会はどうのようなものを皆様にご説明していただけると、議論する時に少しはご理解いただけるとと思いますので、お願いできますか。

(事務局)

- ・ 議会の常任委員会は4つありまして、年4回の議会のたびに開かれます。常任委員会で市の全部の施策を議論しますが、それ以外に、基本計画、廃棄物の清掃工場や病院の管理、履行の問題など、市にとって大きな課題について集中的に議論するために特別委員会が設けられています。
- ・ 基本計画につきましては、市の最上位計画ですので特別委員会の対象となります。平成19年4月から本議会の議決事項となり、議会が特別委員会を作り集中的に審議を行い、最終的には特別委員会の採決を得て、本会議で議決され、初めて計画になります。これまでは、市長が審議会の意見を聞いて作り、議会には後からの報告事項というかたちでした。今回は、この議決を通らないと成案にならないということになります。

(細野座長)

- ・ 特別委員会の先生方も、我々の議論をモニターなさっているということです。
- ・ 報告事項についてご質問・ご意見はございますか。
- ・ 特になさいますので、次第の報告事項は終了したいと思います。

## 2. 審議事項

(細野座長)

- ・ 次第2の審議事項に入ります。本日は非常に大事でございまして、基本計画の構成、策定スケジュール、重点プログラムの内容と盛り沢山となっておりますのでよろしくお願いいたします。
- ・ 本日は新年度最初の審議会でございますので、前回まで審議してきた施策体系から一旦離れます。新たな基本計画の構成、今後の策定スケジュールについて、再度確認をしておきたいと思っております。その後、基本計画素案の第3章の重点プログラムという、全体的話し合いですが、そちらの方に審議を移したいと思います。
- ・ では、事務局の方から基本計画の構成、今後の策定スケジュール、及び重点プログラムについてお願いしたいと思います。

(事務局)

- ・ 参考資料、参考資料2、参考資料3について説明
- ・ 資料4、資料5について説明

(細野座長)

- ・ ただいま事務局から、基本計画の構成と本日の審議対象の「第3章 重点プログラム」についてのご説明がございました。前回までは施策体系に基づく分科会で、主に受け持つべきところに重点的に議論していました。
- ・ 今回は、横須賀市が抱える全体的な課題に対して、どのようなことに重点的に取り組むべきなのか、今後の方向性について全般的にご意見をいただけたらと思っております。
- ・ 特別委員会の中でも、分科会での委員の方々の属性についてのご意見がございました。「若い人はよく分かっていない」「お年寄りが少ないのではないかなど、いろいろ

な話がありました。我々の分科会では、非常に活発な意見が、それぞれの各方面の方々から出されていますので、引き続き委員会の先生方がなるほどと思われるようなご意見を出していただきたいと思います。

(永田委員)

- ・ 公募で委員になりました。永田と申します。よろしくお願いたします。
- ・ 資料5の「重点プログラムを導く条件の整理」について、考えてきたことがいくつかあります。「1 子どもを育てる環境」に関して、私は市立横須賀総合高校の2期生でございます。高校の環境は施設環境が整っていきまして、こうした高校が増えてほしいという思いと、また、こういった高校をもっと活用してほしいという思いがあります。
- ・ 公立高校の目標、ビジョンがもう少ししっかりできるとよいと思います。
- ・ 「2 生涯を過ごす環境」に関して、「障害のない都市基盤づくり」というのがございますが、私は湘南鷹取に住んでおりまして、数年前に歩道の補修により、段差が少なくなりました。また、駐車場からの出口がスロープ状になり、車が底を擦らずに出られるようになりました。こうした道路の補修等都市基盤づくりを積極的に進めて、誰もが活用しやすい安全な道路ができればよいと考えております。また、街路樹の整備なども進めていただければ、その街路樹の手入れを通じて、地域の連携も図れるとよいと思います。
- ・ 「3 自然環境」の「豊かな山林や海岸の保全・再生」に関して、横須賀は、海はほとんど埋め立てられ、川はコンクリートで舗装されており、また水がきれいではなく、遊ぶことができません。友人の出身地である甲府市は、川の水もきれいで、子どもが安全に遊べる構造となっています。横須賀市も、そういった川が増え、子どもたちが遊べる環境が増えればと思います。そのような遊ぶ場所の充実には、子どもだけでなく、大人の交流の場としても一役買うことができると考えております。
- ・ 「4 安全・安心」の「大型自然災害への体制整備」に関して、海外で大きな災害が発生して、市民の皆さんの関心が高まっている時などにアンケートを実施し、各地区にどれだけ支援を必要とする人がいるのかなどの状況を把握することで、非常時にすばやい対策が取れるよう対策を取っているということ、横須賀市としてもアピールできればよいと思います。
- ・ 「5 まちの活気」に、「企業誘致の推進」と「雇用対策の推進」が課題として挙げられています。横須賀市に拠点を置く企業への支援を充実させていくことで、新たな企業の誘致に繋げていければと思います。企業雇用対策の推進、既存企業への支援と新規企業の誘致を平行して実施すると、横須賀市の資源が分散されてしまうと思いますので、どちらか一方に資源を集中して、すばやい効果を上げていくことも大切かと考えています。
- ・ 最後に「6 利便性」に関して、「横須賀市内の幹線道路の渋滞」が課題として挙げられていますが、特に駅前周辺は、駅に送り迎えする車が多く駐停車しており、それにより本来2車線のところが1車線を封鎖することになり、更にそこに国道16号線からの車の合流で、渋滞になっています。駐停車禁止を徹底するとともに、駅前のスペ

ースを確保することができればと思います。難しい課題かとは思いますが、少しずつそういった課題の解消が図れればと考えております。

(細野座長)

- 6つの箱に関していくつかの課題を指摘してくださったのですが、優先順位の高い課題を挙げていただいたと解釈してよろしいですか。

(永田委員)

- 個人的ではありますが、そう考えております。

(鳥居委員)

- 公募で委員となりました、鳥居と申します。よろしく願いいたします。永田委員からもありましたように、私も子どもを育てる環境ということに重点を置きたいと考えております。2人の子どもを育てておりまして、どのように子どもを育てていこうかということを毎日考えております。
- 先日、子どもが小学校に上がる際に、横須賀で教育するには不安があるということで、横浜に引っ越した友人が何人かいました。私はまだ子どもが小学校へ行っておりませんので、そういった実際の状況は分かりませんが、横須賀市は教育が遅れているので、高い教育を受けさせたいがゆえに、家族で横浜市など市外に出て行く方がいるというのが現実のようです。所得により教育環境の二極化が進んでいる現状が横須賀市もみられます。こうした格差を除く環境というのも、横須賀市が取り組む課題の中には是非とも入れていただきたいと思います。全ての子どもが平等に教育を受けられる環境、設備に横須賀市が取り組むことによって、子どもが生き生きと育つというのもひとつあると思います。

(細野座長)

- 公教育の必要性とその社会的な要請についてご意見をいただきました。

(高瀬委員)

- すばらしい政策、計画がいろいろ書いてありますが、私が思う、今一番大切なことは、これだけのことを横須賀市が一生懸命取り組んでいるのだから、私たちが横須賀市の一員として一生懸命やるという意識が必要だと思います。横須賀市に住んでいる地域の方々に、横須賀市の取り組みを認識してもらうこと、アピールすること、意識付けが重要な気がいたします。

(細野座長)

- 特別委員会でも、市のNPOを委員として選定しなかったのかという質問がありましたが、1,000人の中から無作為抽出する際に、そうした方々も選ばれるのではないかと思います。
- 絵に描いた餅にならないよう実質的なものにするという、その仕組みづくりがとても

大事だと思います。

(小野間委員)

- 資料4の2ページ「重点プログラムの概要」ですが、「横須賀が取り組むべき課題」から3ページの「重点プログラム」にいきなりいくのが唐突のような気がします。資料5の2ページの「施策別の課題の整理」を間に入れるべきなのではないかと思いません。
- 資料4の3ページの「根底にある基本的な戦略」に関して、戦略2の文章の中の「一方で、プラス思考で考えれば」という記述は、高齢化がマイナスだと言っているようで、よろしくないと思います。また、「高齢者を都市活力の源泉と捉えない限り」など文章自体がマイナス志向のように感じました。
- 都市力6の「利便性」、横須賀が取り組むべき課題の「広域的な道路網と鉄道網の整備」について、鉄道網の整備は何を想定しているのでしょうか。2021年までに何か鉄道網の整備を予定しているのでしょうか。

(事務局)

- これにつきましては、議会でもご指摘をいただきまして、この基本計画の期間の中では、鉄道網の整備は想定をしております。鉄道輸送力の増強という点で、要望活動していきますので、「広域的な道路網の整備と鉄道輸送力増強」という表現に変えさせていただきますと思います。

(細野座長)

- 高齢者というのが、逆に言うと人づくりにとても大事になっているのかもしれませんが。高齢者が社会で活躍することは当たり前で、高齢者に社会で活躍していただいて、私たちの足りないところを補っていただくのだから、非常に重要な財産であるという書き方にさせていただいた方がよいということですね。ご指摘の通りだと思います。世代を超えた協力体制が、これから必要だということですね。

(伊藤委員)

- 横須賀市観光協会の伊藤と申します。よろしくお願いいたします。まず、質問になりますが、7つの都市力とは一般的に使われていることなののでしょうか、それとも横須賀市が考え出したものなののでしょうか。

(事務局)

- これは、今回の計画のために考え出したものです。

(伊藤委員)

- 都市力の番号がプライオリティの高い順番であるのであれば、重点プログラムの順番とそろえた方がよいと思います。
- 例えば都市力1として「子どもを育てる環境」があげられていますが、重点プログラムでは1番目が「環境を守るプログラム」となっていますので、都市力「3 自然環

境」を1番目にしてはどうでしょうか。

- その方が、仮に小野間委員のご指摘どおりに「施策別の課題の整理」を重点プログラムの前に入れたとしても、表現が統一されてわかりやすいと思います。

(事務局)

- 7つの都市力はどの都市にも普遍なものとして、子どもと高齢者、次に自然環境、安全・安心といった生活環境的なもの、にぎわい、利便性といった流れにしています。
- 重点プログラムは、地球全体の環境に始まって個々の命が生まれ、たくさんの方が集まって地域の力になるという横須賀なりのストーリーを持たせた順番にしています。
- プログラムにはプライオリティ、重みづけはありません。人を大切にするということを基本の視点として施策に横串をとおし、横須賀なりのストーリーをつくるとこのような順番になります。
- 議会や他の分科会でも同じご指摘をいただいています。市長の思いもありますので、よく検討させていただきたいと思います。

(細野座長)

- 重点プログラムの前に課題の整理を入れる、また都市力の順番を変えるのも選択肢としてあるかもしれません。

(室町副座長)

- 資料5は文字が多すぎて字も小さいため、今後の市民会議で資料をサッと見てすぐ議論となると理解しづらいのではないのでしょうか。
- また、「横須賀が取り組むべき課題」からどのようにして「施策別の課題の整理」が出てくるのかが、1つの矢印で繋いだけではわかりにくいと思います。
- 7つの都市力についても、どのように出てきたのかがわかりません。「課題」が多用されていますが、課題という言葉はマイナス志向のように感じます。神奈川県平均に比べて横須賀の劣っている部分を頑張ろうという内容と、横須賀市が持っている強みが混合されて複合的なため、簡単にはわかりにくいと思います。
- 市民意見・ニーズに「出産場所・産科医の不足」とありますが、具体的な目標数値はあるのでしょうか。また、実現に向けた時間についても、5年、10年、あるいは20年かかるのかが見えません。

(細野座長)

- 横須賀市のリソースについては小さく示されているだけで、リソースを裏づける具体的なデータも、ナンバーワンなのかオンリーワンなのかという位置づけもありません。
- 課題に対してこのリソースを活用するので市民のみなさんも参加してください、といったメッセージ性も必要ではないのでしょうか。
- どのくらいの期間で施策のどの部分まで実施するといった工程表も提示する必要があると思います。

(西原委員)

- ・ 5つの重点プログラムと7つの都市力ということで、拝見した当初はどのように整理したらよいか混乱しました。順番も含めて整理した方がよいと思います。
- ・ 重点プログラムの「命を守るプログラム」は都市力の「安全・安心」にあたり、「新しい芽を育むプログラム」は都市力の「子どもを育てる環境」、「にぎわいを生むプログラム」は都市力の「まちの活気」にあたると思うのですが、5つの重点プログラムはわかりやすいけれど、それらにつなげるための7つの都市力については、重複感もあり整理が必要だと思います。例えば、都市力「1 子どもを育てる環境」と「4 安全・安心」の両方に防犯対策が重複しているなど、整理が必要です。
- ・ 都市力「7 ブランド力」については、横須賀のことをみなさんに知らせていくのはよいことだと思います。
- ・ 基本的には同感するものが多いです。

(細野座長)

- ・ 西原委員の指摘は、重点プログラムが具体的にどの課題のソリューションになっているのかを示せばわかりやすいのではないかと、ということだと思います。

(伊藤委員)

- ・ 計画は目標が必要だと思います。例えば横浜や神戸などどの都市でもよいので、何年後にこのような都市を目指すといった目標とする都市があるのでしょうか。
- ・ また、計画の最終的な目標は人口減少を止めることなのだと思いますが、何年までにどの程度の人口でくい止めるといった目標値があった方が、市民にとってもわかりやすいと思います。

(事務局)

- ・ 計画ですから、当然目標と評価が必要です。総合計画は3層構造になっています。基本構想、その下に今ご審議いただいている基本計画、一番下に実施計画があります。
- ・ 基本計画は11年の政策体系で、すべての政策をどのようにしていくかを示します。具体的な事業レベルを示すのは3年間の実施計画です。財政推計を伴う予算が明確になり、基本計画にあげた政策について、具体的な予算をバックにして事業を決め、目標量を定めます。
- ・ 特に重点プログラム部分については、事業をピックアップして成果指標を定めます。また、市民アンケートを実施して実感に伴う評価も行います。つまり、どのような目標でどのようなスパンで行うかは実施計画で定める仕組みになっています。

(細野座長)

- ・ 人口についてもご質問がありましたが、人口予測は非常に難しく、どこまでできるかという点もありますが、努力なさると思います。
- ・ 目標とする都市については、横浜市とも藤沢市とも違うオンリーワンの横須賀を目指すのですが、横須賀の強みのどこを強調するかという戦略は必要だと思います。



(永田委員)

- 重点プログラムの根底にある基本的な戦略の2について、表現がネガティブというご指摘がありました。重点プログラムの「2 命を守るプログラム」の1番にポジティブな表現がありますので、戦略2もこれに近い表現に書き換えてはどうでしょうか。
- 例えば、「高齢者を都市活力の源泉と捉えない限り、横須賀の未来は立ち行かなくなります」を「高齢者が、まちを支える現役の力として、生きがいを持って参加できることが必要です」のようなポジティブな表現にしてはどうでしょうか。

(細野座長)

- 課題があるにしても、メッセージの与え方次第だと思います。これをしてはダメという表現と、みなさんご協力ありがとうございます、これからもお願いしますといった表現のどちらがよいかです。楽しく夢を描きながら、力をあわせられるような資料の提示の仕方があるのではないのでしょうか。

(伊藤委員)

- 根底にある基本的な戦略の表現で、「人」は都市活力を生み出す最大のリソースとありますが、人材は「人財」という表現にしてはどうでしょうか。

(小野間委員)

- 重点プログラム「5 地域力を育むプログラム」では「それぞれの地域が個性や魅力を生かしながら、主役としてまちづくりに取り組む」とありますが、「地域」とはどのような単位を考えているのでしょうか。

(事務局)

- 市民部が、地域運営協議会の検討をしています。本市は9の行政センターと本庁の計10地域が立地しておりますので、基本的にはこの地域割りを考えています。ただ各地域に特色がありますので、みなさんの意見を採り入れつつこれからの議論になります。

(小野間委員)

- 地域に権限や財源を移譲していくことを想定しているのでしょうか。

(事務局)

- 他都市ではそのような取り組みが見られ始めていますが、本市ではこれから議論していく予定です。

(細野座長)

- 大変本質的な指摘だと思います。市民と行政との協働についての市のスタンスをこの部分に書き込む必要があると思います。

(永田委員)

- 重点プログラムには課題という言葉が多く用いられていますが、課題には2種類あると思います。1つは平均点には達していない課題、もう1つは平均点には達しているが、トップレベルには達していないという課題です。
- 早急に取り組むべき前者の課題と、引き続き取り組む必要がある後者の課題を分けてはどうでしょうか。市民にわかりやすいよう、課題へのアプローチの仕方で分けられるとよいと思います。

(細野座長)

- 課題に優先順位をつけるというのは大変建設的なご意見だと思います。

(鳥居委員)

- 横須賀が直面する危機として、深刻な財政状況という指摘がありますが、市民にとってわかりにくいと思います。箱物をつくり過ぎたのは想像できますが、実際、どの程度深刻な状況にあるのかわかりやすく示すべきだと思います。
- マイナス面だけでなく、既存のものを生かすなどポジティブな夢のあるものもあげてほしいと思います。例えば、芸術劇場などは、そこで歌ってみたいという子どもの夢が、将来を芸術の方向に進ませるかもしれません。

(事務局)

- 重点プログラムという用語は、国や国際的な計画では多用されていますが、地方自治体の計画ではプログラムという表現はあまり出てきません。特別委員会の委員にもなじみがありませんでした。市民のみなさんに理解されるでしょうか。

(室町副座長)

- 一般市民にとっては、プログラムという言葉は理解しにくいという印象があります。

(細野座長)

- 施策をカバーするものであり、持つべき方向性を含んだものが重点プログラムだと思いますが、言葉の使い方で議論がストップするほど無駄なことはありません。
- カタカナ言葉が嫌いな人も結構いらっしゃいますが、このような表現もできると説明すれば理解は得られるのではないのでしょうか。

(西原委員)

- 横須賀市は三浦半島の先なので地域性が他都市以上に顕著です。丘陵を囲んで、都心部（中央地区あるいは東地区）、北部（北地域）、南地域（浦賀）、西地域の4つに分かれます。住宅も山の上、途中、海岸寄りとあり気候も異なります。地域という言葉が多用されるのは、地域性によってばらつきがあるためだと思います。町内会の規模や課題も地域によって異なります。
- 地域を捉えるには3段階あると思います。東西南北の4つに分けるか、10の本庁と行

政センターか、360の町内会・自治会か。地域福祉における地域となると、市全体か地域福祉協議会単位かになると思います。

- ・ 地域性に差がある横須賀では「地域力を育むプログラム」が重要だと思います。

(細野座長)

- ・ 地域の格差がないように、一方で、多様性を損なわないようにする必要があり、非常に難しい課題だと思います。

(室町副座長)

- ・ 人口増減の研究によると、これから20年、30年後に高齢者になる世代で最も生産年齢人口比が小さくなります。今の高齢者だけでなく、これから高齢者になる人も含めて地域に寄与することを文言レベルで表現してもらえればと思います。

(細野座長)

- ・ 2、3ページの絵は変えていただけるのでしょうか。
- ・ 横須賀市が直面する危機とありますが、これは日本全国共通の課題です。横須賀市のリソースを課題解決に活用するための戦略として人材の育成などを示す形にしてはどうでしょうか。
- ・ また、プログラムと課題との対応関係をマトリクスなどで表現すればわかりやすいのではないのでしょうか。

(事務局)

- ・ ここについては、他の分科会でも矢印の向きが違うなどのご指摘をいただいています。根底にある基本的な戦略はもっと前に記載すべきではというご意見もあります。

(細野座長)

- ・ 市民が賢く議論できるよう、事務局にはより一層の工夫をお願いします。

(永田委員)

- ・ たくさんのリソースがあるという部分をもっと大きくしてほしいと思います。
- ・ 市民会議には1,000人の人が集まるということですが、他地域から来た人などは、横須賀市民であってもリソースを知らないことがありますし、横須賀のよいところをもっと強調できるとおもしろいと思います。

(事務局)

- ・ 市民会議の参加者は、地域の行政センターごとに人口割りで、年代を考慮して1,000人を無作為抽出して、ご案内し、参加の承諾をいただいた市民に参加していただく予定です。藤沢市、小田原市では、7%前後が参加したということですから、多くて70人と考えています。
- ・ 事前に十分に資料を提供して議論していただきたいので、リソースに関して議論でき

るよう工夫したいと思います。

(小野間委員)

- ・ 素案の3ページに「厳しい財政状況への対応」とあり、経常収支比率、市債残高、財政調整基金残高それぞれの推移が記載されています。しかし、表中の市債残高は平成13年度から減少していますし、財政調整基金残高も2004年のピーク以降は120億円程度と急変しているわけではありません。それに対して経常収支比率は2004年から2005年の間に86.6から96.8になっていますが、変化の理由について記載がありません。上昇した理由はいろいろあると思いますが、記載することが必要ではないでしょうか。
- ・ また、経常収支比率よりも、市税収入や扶助費や医療費の推移などを比較した方がわかりやすいのではないのでしょうか。

(事務局)

- ・ 借金全体は減りつつあるけれどまだ3,000億円あり、貯金にあたる財政調整基金も少しずつ減っていることを示したつもりでした。経常収支比率からは自由に使えるお金の程度を見ることができます。
- ・ 市民会議で資料化する際は、もう少しわかりやすく工夫します。

(細野座長)

- ・ 1つの家計に擬えてみせるとわかりやすいかもしれません。

(永田委員)

- ・ 経常収支比率が急に跳ね上がった要因や、その成果などがわかるとよいと思います。家庭に例えて、子どもが私立大学に入学したので入学金が必要だったなどの説明がいくつかあると、とてもわかりやすいと思います。

(細野座長)

- ・ 他にご質問等ないようですので、本日の審議を終了いたします。密度の濃い議論をありがとうございました。
- ・ 今後について事務局より説明をお願いします。

(事務局)

- ・ 今日いただいた意見は、7月の審議会に示す3次素案に反映したいと考えています。
- ・ その前段では、無作為に抽出した1,000人の市民に事前に資料をお送りした上で、市民会議を行います。

(細野座長)

- ・ 交流分科会として、重点プログラムについてかなり踏み込んだご意見をいただきました。ありがとうございました。
- ・ それらをまとめてお示しいただけるとのことですので、事務局には第7回審議会に向

けて調整をお願いします。

### 3. その他

(事務局)

- ・ 次回、第5回交流分科会については5月19日水曜日の10時から12時に行く予定です。第6回分科会については5月20日木曜日の10時から12時に行く予定です。開催の案内および資料を事前に送付させていただきます。なお、6月は審議会の開催予定はございません。第7回は7月になります。
- ・ 本日の議事要旨につきましては、後日お送りいたしますのでご確認をお願いいたします。

(小野間委員)

- ・ 5月19日と20日の審議会では何について話し合うのでしょうか。

(事務局)

- ・ 施策体系を詳細に記載した2次素案についてご審議いただく予定です。
- ・ その後、7月の審議会では、本日お話いただいた重点プログラムを含め全体を修正した3次素案をお示ししてご審議いただきたいと思います。

(細野座長)

- ・ 本日はこれで会議を終了します。ありがとうございました。

(以上)